

教育的価値	具 体 の 項 目	教育課程
2【かかわる】	⑬【地域づくり】 郷土の美しい自然、伝統行事・郷土芸能、温かい人のつながりのある社会、安全なまちを願い、地域づくりにかかわる。	ふるさと科

【題材】「地域の郷土芸能を楽しもう、守ろう、伝えよう」

小中合同郷土芸能発表会に向けた取り組みと3年生の他校への郷土芸能発表の発信

【対象】全校児童102人

【実践の概要・詳細】

〈概要と計画〉

吉里吉里地区には、3つの郷土芸能『鹿子踊り』『大神楽』『虎舞』の3つの踊りがあるが、年々踊り手の減少が続いている。

小中一貫校の実施に向けて、小中合同で、3つの郷土芸能の継承に取り組み、地域や保護者に向けて発表した。



日にち	活 動 内 容
5月上旬	郷土芸能希望調査・名簿作り
5月28日	郷土芸能講演 『3つの郷土芸能の由来や歴史』
6月～	小中合同郷土芸能練習6回
7月	会場：中学校
6月18日	小学校3年生：郷土芸能学習
7月9日	5, 6年生中学生と郷土芸能発表 4年生以下は発表を觀賞する。 会場：中学校で
7月10日	郷土芸能反省会：中学校で
10月18日	郷土芸能発表会（小学生だけ）
11月14日	湯田小学校訪問で郷土芸能について調べたことを発表する。（3年生）



小学生と中学生が、5年生～中3までに3つの踊りを経験することを前提に希望調査で、踊りの3グループを決定。リーダーを中学3年生が務め、練習の進行や、踊り・お囃子を小学生に教える。毎回の反省カードには、リーダー（中3）がコメントを書き小学生を激励する。小学生は、手本となる先輩がそばにすることで、意欲的に参加した。また、踊りやお囃子の技術的な部分も中学生が具体的にアドバイスしてくれたので、一人一人への指導が手厚く行われた。特に初めて郷土芸能に取り組んだ児童にとって、身近な先輩の教えは、受け入れやすくわからないことも優しく教えてもらえたと感謝の感想が多く聞かれた。

発表会当日は、保護者のみならず、仮設住宅にすむ地域の方や小学生の観客が見守る中、全員が踊りやお囃子を披露することができた。地域の方には、後継者が育っていることに感動していただき、低学年児童には、迫力ある踊り手に憧れを抱いてもらうことができた。

11月の湯田小学校訪問では、吉里吉里の郷土芸能について3年生が調べた踊りの由来、道具や衣装について発表してきた。湯田小学校、沢内小学校3年生に興味を持って聞いてもらった。



【授業の展開】

	主な学習活動	留意点
導入	1 前時の学習の想起と講師の紹介 鹿子踊りのできたわけを知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> ・吉里吉里の3つの伝統芸能があることを確認する。 ・講師の先生の話の聞くポイントを確認する。
展開	2 鹿子踊りの由来を知る 3 鹿子踊りの頭をかぶり、郷土芸能の苦勞を知る。 4 更に知りたいことを質問する。	 <ul style="list-style-type: none"> ・頭の重さを体感したり、太鼓をたたいてみる。
終末	5 次時の学習内容をしる。 ・虎舞いと大神楽について学習をすることを知らせる。	

〈児童感想〉

- ・ 虎はとても迫力がありました。鹿子は首が動いてすごかったです。大神楽は、よくおぼえたと思いました。(1年)
- ・ 中学生のみなさんが小学生に見せるために一生懸命踊ってくれたのでうれしかったです。(2年)
- ・ 湯田小学校での発表は、クイズも特産品紹介も郷土芸能も全部うけて良かったです。(3年)
- ・ 虎舞いの中に入って歩き方も迫力あってすごかったです。(4年)
- ・ 自分の役割をちゃんとして協力できて良かった。太神楽を大切にしていきたい。(5年)
- ・ 虎舞に参加したのが初めてで緊張したけど、地域の人達に喜んでもらえて大成功だったので良かった。(6年)

〈まとめ〉

吉里吉里の小学生は、郷土芸能が大好きで踊りを楽しんでいる。地域もそれを応援し、協力を惜しまない。郷土芸能に小中合同で取り組み発表という場を設けることで、地域の人に楽しんでもらえた達成感を感じた子が多かったことが成果である。又、小・中合同で行事をする中で、児童・生徒のつながりが強くなり小中一貫教育へのステップになったことも意味が大きかった。

3年生が湯田で、吉里吉里地区の芸能を発信し吉里吉里の郷土芸能を他の地域にも発信できたことも地域への愛着を深めるきっかけとなった。

課題は、この活動の継続化を図ることである。



〈地域の方の感想〉

・ 仮設生活から4年目。最初から見えてますが、子どもたちの芸に感心しています。今年は小学生が加わり、又一段とにぎやかで良かったです。これから何年仮設生活が続くか・・・楽しみにしています。